

巻 頭 言

大学院歯学研究科長 宮崎 隆

昭和大学歯学部は昭和52年に設立されましたが、学部の完成年度である昭和58年に大学院歯学研究科の設置が認可されました。以来、本歯学研究科は医系総合大学である昭和大学の一員として、全身の健康との関わりをもとに歯学に関する先端的かつ独創的な研究を押し進めてきました。全国の大学院歯学研究科のなかでも、最も活発な研究活動をしている研究科のひとつであり、多くの大学院生が学び社会に育っていきました。

歯科医療が発展するためには、それを支える優れた歯学研究が必要です。齲蝕とその予防に関する基礎研究ならびに口腔保健衛生の普及により、我が国においても子どもの齲蝕は激減しています。そして、歯科界あげての8020運動と、歯周病に関する基礎研究と歯周病予防の推進により、高齢者の残存歯数は当初の予想よりも改善が進んでいます。欠損歯列の補綴処置についても、インプラント補綴が実用化され、歯冠修復分野を含めて、デジタルフローが導入され、新しい材料の利用も進められています。

歯周病と糖尿病ほかの生活習慣病の関連については、歯周医学として基礎研究・臨床研究が進んでいます。さらに、我が国が世界に類の無い超高齢社会に突入しつつあるなかで、摂食、嚥下、呼吸、発音などの口腔機能の重要性が再認識され、加齢や疾患による顎口腔機能の低下が国民の生命の維持や生活の質(QOL)を大きく左右することが明らかにされています。また、急性期病棟だけでなく、慢性期・回復期病棟、介護施設、在宅における口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止や健康維持に重要であることも認められています。

このように、歯科医療が国民の長寿健康に一層貢献することが求められ、そのためにも歯学研究の推進が重要になってきました。

本歯学研究科ならびに歯学部は、平成17年度以降、文部科学省のハイテクリサーチセンターに選定され、「顎口腔機能障害の発症機序究明とその機能回復に関する先進的研究」について、体系的な研究に取り組んだことを皮切りに、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の採択を受けて、これまでいくつかの大型プロジェクトに取り組んでできました。それらには、「分子的理解に基づいた口腔癌の先端的研究」、「デンタルイノベーションを目指した集学的研究拠点形成ーアンチエイジングに貢献する新たな付加価値の創生ー」、「次世代型顎口腔再生医療の研究開発拠点形成」ならびに「口腔機能維持・回復のために集学的研究開発拠点の形成」があります。この成果が、専門歯科臨床の現場に還元され、患者の健康回復に貢献しています。そして研究は引き続き、関連の部署で進められています。

現在、本歯学部ならびに本歯学研究科には、世界のトップレベルの歯学系研究施設と比べても遜色のない、最新かつ最先端の研究機器が導入されています。研究指導する教員も我が国の歯学研究分野ではトップレベルを誇っています。ぜひとも各大学院生におかれましては、このシラバスを活用して、歯学研究の共通の基礎的手法を習得するとともに、各分野で専門性の高い研究に従事して成果をあげ、世界に広く発信することを期待しています。